日本小児科医会会報　＜執筆要項＞

1．原稿構成

（1）第1ページ目は表紙とし，表題，各々の著者の所属，著者全員の氏名（以上は和文，英文で記載），キーワード，連絡責任者の住所，所属，氏名，電話，FAX，E-mailアドレス
を記載すること。

（2）キーワードは5個以内とし，索引として役に立つものを選ぶこと。略語は使用しないこと。また，外国語を用いる場合は，適切な日本語がない場合に限る。

（3）第2ページ目以降は，以下の順に作成すること。
1．要旨（和文抄録），2．本文，3．利益相反，4．著者役割（臨床研究），5．文献，6．表，
7．図の説明，8．図

（4）図，表は1点400字換算とする。

2．論文種別の文字数，文献数，図・表は以下の通りである。

種　別	文字数	図　表	要　旨	文　献	キーワード	組上がり規定頁数
原　著 （臨床研究）	15,000字以内	1点400字換算	600字以内	制限なし	5個以内	8頁
原　著 （症例報告）	9,000字以内	1点400字換算	600字以内	15編以内	5個以内	5頁
総　説	15,000字以内	1点400字換算	600字以内	制限なし	5個以内	8頁

3．（原著）臨床研究および（原著）症例報告で，組上がり規定ページを超える場合は，1ページあたり15,000円の著者負担とする。カラー印刷の代金，図のトレース費用は著者負担とする。

4．著者の所属は，投稿時のものではなく，論文に関係する仕事をした時のものを記すこと。

5．原著論文に関しては，表題は簡潔にし，原則として40字以内とし，副題は付けないこと。

6．原稿は，以下の要領に従って作成すること。

（1）現代かなづかい，常用漢字を用いること。

（2）学術用語は原則として『小児科用語集』（日本小児科学会編）によること。
外国語は極力避け，その使用は適当な日本語がない場合に限る。

（3）表題には略語を用いないこと。ただし略語を使用したほうが分かりやすい場合は認められる。

（4）本文中に略語を用いる場合は，一般に使われているものに限る。その場合，初出の際に省略しない語を記載し，括弧内に略語を示すこと。

（5）原則として，外国人名は原語で，薬品名は一般名で記載すること。

7．英数字は半角文字を用いること。

8．図・表については以下の要領に従うこと。

（1）表は，必要な情報を簡潔明瞭に示し，何を示そうとしているか分かる表題を付けること。

（2）図・表は，本文を参照しなくともその図・表のみで内容が分かるように工夫すること。
（3）図・表とその説明文・表題などは極力日本語を使うこと。
（4）図・表には各々につきアラビア数字で番号を付すこと（図1，表1など）。
（5）図・写真は，そのまま縮小可能な形であること。従って，縮小されても情報が読み取れるものとすること。
（6）患者の顔写真を使用する際は，患者本人および患者の代諾者に十分説明の上，文書で同意を得ること。本人の意思表示ができない状態では，代諾者の同意のみとする。許可を得たことを写真の説明の中に明記する。被虐待児等の症例で同意が取れない場合には，IRB（Institutional Review Board，施設内審査委員会）の承認を得て，その旨を写真の説明の中に明記し，目の部分を隠すなど，患者の同定を不可能にする工夫をすること。

9．数字はアラビア数字を用い，数量の単位はkm，m，cm，mm，μm，L，dL，mL，μL，kg，g，mg，μg，mEq/L，mg/dLなどを用いること。mm^3，cmmなどは用いず，μLを用いること。

10．著者全員の著者役割を，文献の前に例のように具体的に記載する。利益相反の後に掲載される。
（著者名）は論文の構想・設計，データの収集・解析および解釈において貢献をした。
（著者名）は論文作成または重要な知的内容に関わる批判的校閲に関与した。

11．引用文献
（1）文献は必要最小限にとどめること。
（2）記載順序は引用順とし，本文中の引用箇所は，その右肩にアラビア数字を記入すること。
（3）文献の書き方は，次の形式による。
1）雑誌の場合：著者名．表題．雑誌名　発行年；巻：通巻始ページ―通巻終ページ．
2）単行本の場合：著者名．書名．版数．発行社の所在地名：発行社，発行年．
書籍の場合：著者名．書名．版数．発行社所在地名：発行社，発行年（西暦）．
3）分担執筆による単行本の中の分担部分の引用の場合：著者名．分担執筆部分の表題．編集者名．書名．版数．発行社の所在地名：発行社，発行年：分担部分の最初ページ．最終ページ．
4）雑誌名は，その雑誌指定の略名がある場合はそれを用い，ない場合は Index Medicusあるいは医学中央雑誌の収載誌略名を用いること。
5）発行年は西暦を用いること。
6）著者名は，3名までは全員を記載する。4名以上の場合は最初の3名を記載し，「，他」あるいは外国語文献の場合は「, et al.」を付する。
7）ウェブページの場合
著者名（判れば）．“Web ページの題名”．Webサイトの名称，入手先URL,（参照日付）．とし，数年間は元データを保存する。
8）実例
a）Fujisawa K, Tani P, McMillan R, et al. Platelet-associated antibody to glycoprotein IIb/IIIa from chronic immune thrombocytopenic purpura patients often binds to divalent cation-dependent antigens. Blood 1993; 81: 1284–1289.
b）内田 満夫，金子 稔，山本 洋，他．我が国におけるインフルエンザ（H1N1）2009に対する学校閉鎖の効果．日衛誌．2013; 68: 103–117.
c）Cohen MM. The child with multiple birth defects. New York: Raven Press 1982.
d）大西 弘高．アウトカム基盤型教育の歴史，概念，理論．田邊 政裕編．アウトカム基盤型教育の理論と実践．東京：篠原出版新社，2013: 3–38.
e）Dorken B, Moller P, Pezzuto A, et al. CDw75. In: Knapp W, Dorken B, Gilks WR, et al., eds. Lymphocyte typing IV: white cell differentiation antigens. New York: Oxford University Press, 1989: 109–110.
f）日本小児内分泌学会のホームページ．http://jspe.umin.jp/medical/taikaku.html（2015年5月1日参照）．